

延享元年江戸買米令史料

——白木屋文書による——

林 玲 子

享保期に顕著となる「米価安の諸色高」という状況に対し、幕府は物価対策のため江戸における問屋仲間の結成を計ったり、商品流通ルートや流通量の調査を行なう一方、米価を引上げる方策として大量集散地における買米を民間で行なわせることを始めた。享保一六年（一七三一）、大坂において六〇万石の買米を富商や三郷町々に分担せしめ、さらに享保二〇年、二十一年、延享元年（一七四四）と大坂では買米令が頻発された。これに対し、江戸では延享元年に最初の買米令が発せられている。従来の研究史では、延享元年九月一〇日に江戸の米問屋・米仲買・地廻り米問屋一〇七名（本庄栄治郎著『徳川幕府の米価調節』では一〇九名となっているが、土肥鑑高氏は「享保撰要類集」にもとづき、一〇七名としている。）に対し、一〇万五五〇〇石の買米を命じたとき

れている。土肥鑑高「享保期の江戸町人」（西山松之助編『江戸町人の研究』第一巻）では、最高五〇〇〇石四名、二五〇〇石五名、二〇〇〇石一名、一五〇〇石四名、一〇〇〇石二名、九〇〇石二名、七〇〇石一八名、三〇〇石二名、二〇〇石二名、一〇〇石一名の米商人名があげられており、延享段階においては一応これらの商人が江戸における富商な階層として分析がなされている。

しかし、江戸での買米令はこの一〇万石余で終わったのではなかった。江戸日本橋に呉服・小間物を扱う問屋として大をなした白木屋は、京都に本店がある江戸店であったが、買米令の対象となりそれに関する一連の史料を遺している。本稿は東京大学経済学部所蔵「白木屋文書」中の買米令史料を紹介し、

- (1) 買米令実施の具体的経過
- (2) 幕府の江戸富商に対する態度
- (3) 白木屋の対応

などの諸点を明らかにすることを目的とする。なお、各史料の表題、読点は筆者の判断によって付したものである。

延享元年九月二二日、白木屋彦太郎を含む五名の商人に対し、翌二三日に江戸町奉行所へ出頭すべしという配符が回った（史料1）。白木屋江戸店支配役筆頭の林田太郎右衛門他二名が出頭すると、差紙の五名にさらに四名を加えて九名の者が呼び出されていた。そのなかには、両替商である三谷三九郎・海保半兵衛が含まれている。町奉行から九名に対し、買米令を出す理由が説明され、白木屋に対しては江戸店であることを考慮して買米高を命じる旨が付け加えられた（史料2）。翌二四日には買米金高が九名それぞれへ封書で指示され、白木屋には金三〇〇〇両分が割当てられた（史料3）。前述の米商人に対する指示石高では最高が五〇〇〇石であり、次が二五〇〇石であって、白木屋に対する割当て額はかなり高く位置づけられていたといえよう。しかも、京に本店のある江戸店ということを考慮しての金額であるというのだから、他の者はこれに上回る割当額を受けさせられた可能性が強い。

白木屋江戸店から京都本店へ二四日にはさらに詳しい書状が登された（史料4）。それによると、町奉行は將軍の膝元である江戸の商人が大坂町人に劣ることはあるまいと、江戸町人の競争心をかきたて、二、三日中に買米を始めるよう督促している。白木屋では、これまで数年来飯米を買入れていた小網町の米問屋湯浅屋与右衛門と相談し、買米をすることにしたが、店の営業状況が盆後はかばかしくなくて、金子の余裕がなく苦勞する。そのため江戸店の宰領で行なう田舎買物Ⅱ関東織物の買付けや、京都への登せ金を一時中止するかもしれないと断わっている。なお、町奉行所では江戸の富裕町人を調査する意図もあつてか、町内の地屋敷所有分を書出させていることが注目される。

九月二六日まで九六一石余の買米を行なった白木屋は、借り蔵に蔵詰めを行なった上、米俵数、代金高を町奉行所に届け出た（史料5、史料6）。奉行所からは役人が出張し、米蔵を調べて封印を行ない、白木屋や蔵主・名主・五人組連印の証文をとっている。なお、九名それぞれに渡した買米割当金高の書付けは決して他見させぬよう繰返し注意しており、これが延享の江戸買米令の全貌を把握できなくさせた一因であったと考えられる。

一〇月に入っても買米は続けられ、そのたびに白木屋では書付差出しを行なった（史料7、史料8）。一〇月一日には九月二三日に呼び出された九名がまた町奉行所へ出頭を命ぜられている（史料9）が、同一五日にはその九名のなかの白木屋彦太郎・万屋伊右衛門・成井善三郎の三名及び他の五名、合わせて八名が翌日五ツ時まで永代橋の向いにまかりでて、買米書付けを役人に差出すことを命ぜられている（史料10）。すなわち、買米令は米問屋・仲買及び九名の富商からさらに範囲が拡大されたのである。それを推測させるのが、史料11「四六名前書付」で、この中には史料10の八名の中にある中里清左衛門・水野平八の二人が含まれている。なお、史料23「買米覚書」によると、白木屋たちが買米を命ぜられた後、「其後又々江戸中内証宣者御吟味之上、四拾三人被為仰候」と、四六名に近い人数の者が追加されたらしい。書付の四六名のなかには、大伝馬町一丁目の木綿問屋である川喜田久太夫・田端屋次郎左衛門・小津清左衛門・長谷川次郎兵衛・白子屋七右衛門などや、白木屋も所属している三拾軒組（呉服・小間物諸色などを商う問屋の仲間）で通町組・内店組両組を合わせたもの（参加の大和屋四郎右衛門・岸部屋藤右衛門、両替商の三谷勘四郎・村田七右衛門、享保期以降金融業を開業し、寛政期には勘定所御用達に登用される仙波太郎兵衛などが含まれている。ただ、米問屋であり一五〇〇石の買米割当をすでに九月一〇日にうけている湯浅屋与右衛門が含まれているのが不審である。

この中の一人、川喜田久太夫江戸店の勘定書類の一つに、延享元年分の「利金帳」（三重県津市石水文庫所蔵）があり、他の年には見られない項目として「買置米蔵敷小遣共、金拾四両、銀拾三匁五分」という記載があり、白木屋の払った蔵敷料と比較しても相当数の買置米があったことが推測されるのである。他の年次の「利金帳」には同種類の記述がないことや、店の飯米とは思えぬ大量の買置米の存在からみて、川喜田にも白木屋と同じく買米令が発せられ

たと考えてよからう。

一〇月一七日に行なわれるはずであった蔵見分は一八日に延期（史料12）となったが、まだ割当額三〇〇両には及ばなかった。白木屋も金詰りとなり、京本店への登せ金もできず（史料13）、田舎買物も控えていたところ、本店からは登せ金は延引しても良いから、田舎買物は相応にするようにといってきた（史料14）。幕府から始めて命ぜられた個別商人への御用とあつて、京店・江戸店ともに緊張して買米遂行に務めてはいるが、本業である呉服商売に支障を来たすことのないよう留意している姿勢が窺える。またそれだけの余裕を京本店は持っていたのであろう。

一〇月半ばまでに二一七八石余、二三〇二両余の買米をした白木屋は、あと七〇〇両ほどで割当に達することを町奉行所に届け（史料15）、一月に入つて一六九石余、一七〇両余を買った（史料16）ところで、同月一八日に買置米を差免じる旨の申渡しを受けた（史料17）。年貢米収納期に入り、武家払米を行なうのに、米売買や蔵使用に支障を来たす買置米の存在は、米価値上げのためとはいえ邪魔となってきたのであろう。蔵の封印をとくため、申渡し後すぐに町奉行所から役人が派遣され、翌日にかけて白木屋の借り蔵も全部解印された（史料18）。極めて迅速な処置がとられたのである。しかし、売買自由となつても、江戸市中に米がだぶついているわけであるから、当分売りさばく見込みが立たず、白木屋ではその処置に悩まされる。また商売の方も、相応に客はあつても余り売高はあがらず、溜り金が少ないことに苦慮していることが書状から読みとれる（史料19、史料20）。

翌延享二年、白木屋は前年の買置米を売払い、一七〇三両余を得た（史料21）。町奉行所への買米報告を合計すると、買米金額だけでも二四七三両弱となるから、その他の諸経費も含めて大分の損失を出したことになる。それを取返すためか、同時に米売買を別に行ない、一〇四両余の利益を上げた（史料22）。当初の買米令発令から最後の米売買までをまとめた史料23「買米覚書」では、差引七四三両余の損失となっている。武士階級の利害から発した買米令は、米売買を本業とせぬ白木屋に結果的にはかなりの損失を与えたのであるが、白木屋がわも米価の変動を利用してその被害を軽くするような措置をとっており、その点では投機的な商行動に手を染めたといつてよからう。

なお最後に、従来の研究史では米問屋・米仲買など米商人のみを対象にした

とみられている買米令が、両替商・呉服問屋・木綿問屋など、一七世紀後半ごろから台頭してきた商人層へも及んだとみられること、そのなかには江戸に本拠を持つ者だけではなく、京都や伊勢に本店を持つ上方商人の江戸店も含まれていたこと、さらに一九世紀と異なり、問屋仲間としてではなく個別商人として富商が指名されたことなどを指摘して解題の筆を措きたい。

1 町奉行所への出頭差紙(延享元年九月二二日)

三谷三九郎
海保半兵衛
那波屋九郎兵衛
白木屋彦太郎
万屋伊右衛門

明廿三日九時、能勢甚四郎様御番所へ無遅々自身罷出候様可被申渡候、已上
九月廿二日

2 白木屋江戸店書状控(京本店宛、延享元年九月二三日)

子九月廿三日晩子刻出ス
本四日切也
早便一筆啓上仕候、弥此方相替儀無御座候、就ハ昨夜九ツ時町御年寄中より御配符廻り申候

三谷三九郎
海保半兵衛
那波屋九郎兵衛
白木屋彦太郎
万屋伊右衛門

右之者共明廿三日九ツ時、能勢甚四郎様御番所へ無遅々自身罷可出候
右之通御配符廻り申候付、則今日九ツ前太郎右衛門并五兵衛作左衛門罷出候
処、七ツ時分ニ御呼込在之候、尤昨夜御配符之者五人ニ而御座候所、外ニ御
書付廻り申候哉御呼込之人数

メ九人

右之通段々御呼込在之候而
能勢甚四郎様
嶋長門守様

右両御奉行様御立合ニ而能勢甚四郎様被仰渡候ハ

一米相場下直ニ付、武家之難儀町人も商内無之由、依之先達而大坂・堺・京・
大津之有徳之町人共米買入之儀被仰付、御当地にて茂川岸八町其外米問屋共
へ買入之儀申付候へ共、今以墓^(抄)敷出不申候ニ付、吟味之上其方共へ被仰付
候間、随分出情いたし米買入候様ニ可仕旨、尤員数之儀ハ追而被仰渡候御旨
被為仰付候、御当地御膝本ニ罷有候町人ニ付、ケ様成御用茂被仰付候御義ニ
候間、難有奉存随分出情いたし買入候様ニ被為仰渡候、皆々奉畏候旨御請申
上候、然ル所長門守様被仰出候ハ、彦太郎義ハ京住之事ニ候へハ京都ニ而も
被仰渡、左候へハ京江戸両方ニ而ハ金子廻り兼難儀可致候、其御心入も可有
之候間、左様ニ相心得可申旨分而被為仰渡難有御義奉存候、右之通被為仰渡
皆々日暮方ニ罷帰り申候、尤今日早朝より江戸中米問屋仲買搦米ヤ衆夥敷御
召出し、御白洲江御呼込被差置候而其場ニ而右九人別ニ右之趣被為仰渡候、
尤員数之儀ハ明日五ツ時御書付を以可被仰付間可罷出旨被為仰渡候間、委細
之儀ハ明日御書付頂戴仕候而以便御様子可申上候間、左様ニ御心得被遊可
被下候、右之段御知らせ為可申上候、如此御座候、恐惶謹言

九月廿三日

白木屋彦太郎
三谷三九郎
海保半兵衛
那波屋九郎兵衛
万屋伊右衛門
村田次兵衛
成井善三郎
冬木喜平次
冬木小平次

八郎右衛門
喜兵衛
太郎右衛門

白木屋

勘右衛門様

重右衛門様

文右衛門様

太右衛門

3 買米令書付写 (延享元年九月二四日)

此度被仰付御買米御書附

御町奉行

能勢甚四郎様より頂戴之仕候

子九月廿四日朝四ツ時

林田太郎右衛門

白木屋彦太郎

金三千両分

右金高之米買置可申候、買取候ハ、俵数石高書付致封印可差出之、其節改之役人可遣候、尤金高并俵数石高之儀、兄弟親類知音之者江致沙汰間敷候、右米売払候儀者追而可及沙汰事

4 白木屋江戸店書状控 (京本店宛、延享元年九月二四日)

子九月廿四日上ス

早便

早便ニ一筆啓上仕候、先以其御地御別条無御座、且那樣益御機嫌能為成御座、各様弥御安康之御旨承知仕、目出度珍重之御儀奉存候、当方御店別而相更儀無御座、衆中私共無異相勤申候間、乍憚貴意安御思召可被下候

一昨廿三日晚出早便書状以申上候御公辺之御儀、則今朝五ツ時能勢甚四郎様御番所江罷出申候所、昨日被為召出候九人江銘々迄宛御書附御封印ニ而御渡し被遊、一切他見仕間敷旨被仰渡、二三日中ニ先々金子有合次第随分出情米買入藏入致、右米俵数金高書付封印仕御番所江相訴可申上旨、其節御役人衆

被遣候而御改、蔵江封印可被遊御旨被仰渡候、尤大坂表之儀ハ右米買入之義被仰渡候後余程相庭引上ケ候へ共、当御地之義ハ墓々敷相庭出不申義、御当地御膝元ニ而広ク商売致候町人、大坂町人ニ劣候事ハ有間鋪被思召候間、其方共随分情出し買入候而米相庭引上ケ候様ニ可仕旨被仰渡候

一今朝御番所より封印ニ而御渡被遊候御書附之写一通懸御目申上候、右御文言ニ御座候通、当地ニ而も私共四人密ニ拝見仕候迄ニ而、家内中ハ不及申、名主殿初其外一円沙汰不仕候御事ニ御座候、其御地ニ而も且那樣各様計御内々ニ而御披見被遊、其外一切御沙汰無用ニ被遊可被下候、右ハ御前ニ而嚴敷御申渡ニ御座候間如此御座候、御本紙ハ大切ニ仕此元ニ差留置申候

則今朝五ツ時罷出候人数

茅場町 冬木喜平治

両替町 三谷三九郎

海保半兵衛

小網町 成井善三郎

深川 冬木小平治

白木彦太郎

西川岸 那葉ヤ九郎兵衛

小船町 村田治兵衛

飯田町 万ヤ伊右衛門

右昨日之人数九人一列ニ而、御書附銘々迄宛御渡し被遊、一切他見仕間敷旨被仰渡候間、外之義と違何れも互ニ相談申合候事も難仕御事御座候

右之通御座候、尤九人之内八人ハ御当地住居之御方故、自身罷出被申候、御店之儀ハ太郎右衛門罷出候、右被為仰渡候御義御意重ク御座候得ハ、昨日ハ御請申上罷帰候而、手前御義ハ出店之御事ニ候へハ、乍恐何卒御断も申上度奉存候へ共、昨夕出書状ニ申上候通、長門守様御列座ニ而、彦太郎義ハ京住宅之事ニ候へハ定而京都にて右御用筋可被仰付、左候へハ京・江戸両方ニ而ハ金子工面茂出来兼可申、当地ハ出店之事ニ候得ハ明日被仰出候金子員数高之義其御思召入も有之間、其旨相心得可申旨御意被成下候御事ニ御座候故、何共此上御辞退も難申上御様子ニ御座候、兎角先々二三日中ニ随分金子有合次第相調、員数書付封印仕御訴申上候様ニ被仰渡候、右之様子ニ御座

候故、其御地江御窺申上候間も無御座、殊ニ是迄存寄無之儀、別而急成御事

ニ御座候間、私共当惑仕罷有候、夫ニ付小網町湯浅ヤ与右衛門殿義、數年手

前飯米等相調申候而取分ケ懇意成米間ヤ衆ニ御座候而、先達而ケ様成御儀

有増格式も能存知居被申候事ニ御座候ニ付、為問合早速支配人衆呼寄承合候

所、大概の様子物語在之承知仕候、乍去相互ニ御書附員數ハ相尋不申候ヘ

共、先御手前義も急々金全里分程も相納藏入致、書附を以御訴申上候様ニ

仕、其余ハ先々見合金子溜り次第ニ被仰出候員數程段々相調候様ニも可仕哉

と奉存候、先達而も六日書狀ニ追々申上候通、当地之儀益後ニ至何方も殊之

外不商ニ御座候而、手前御店も殊之外手透ニ有之、此間ハ一円溜り金無御

座、夫故別而有金無數難儀いたし候所、此度之御儀何共難儀千萬氣之毒ニ奉

存候、乍去右申上候通無扨被為仰付御用之御事ニ候間、無是非先々全里分程

湯浅ヤニ而明日ハ相調候筈ニ仕候間、左様ニ御心得被遊可被下候

右之様子ニ御座候付、先々田舎買物等茂当分ハ差控候積ニ御座候、將又当月

廿九日為登金之儀茂様子ニ寄、得差為登不申候義も可有御座候、此儀も兼而

左様ニ御心得被遊可被下候

一先比仰出在之候由、当地町内ニ地屋敷所持いたし候分、所書間口裏行代金銘

々書附、町年寄衆江差出し可申旨江戸中江御申渡御座候由、当町内茂今日銘

々名主殿方江書付取被申候、則御手前之義も通一町目十五間口、二町目五間

口、田所町六間半口、右三ヶ所書付差出し申候、已上

九月廿四日

5 買米藏詰証文写 (延享元年九月二十七日)

覚

亥年中米

一佐倉米 七百俵

亥年中米

一神奈川米 百俵

四斗入

四斗入

小川六郎兵衛様

下湯木曾八様

新田嶋一色町 須原屋庄兵衛

藏東側四番二入

式口八百俵

此斛 三百式拾石

亥年上米

一芳賀米 五百俵 三斗九升八合入

此斛 百九拾九石

亥年中米

一棚倉米 七百四拾九俵 三斗式升九合入

此斛 式百四拾六石四斗式升壹合

亥年上米

一上総 房州米 三百三拾五俵 三斗七升五合入

亥年中米

一岩城米 式百拾六俵 三斗式升五合入

式口五百五拾壹俵

此斛 百九拾五石八斗式升五合

俵合式千六百俵

斛合九百六拾壹石式斗四升六合

右之通御座候、以上

子九月廿七日

通壺町目

白木屋

彦太郎

代太郎右衛門印

証文之事

右之米私買置藏詰致候俵數石高相違無御座候、為後日仍如件

延享元年

子九月廿七日

白木屋彦太郎代

太郎右衛門印

後藤三郎兵衛殿

洪野伝右衛門殿

右者御米藏入相濟候上ニて右御兩人御持參被成候帳面へ右文言之証文致差上申

候

指上申一札之事

一 色町庄兵衛東四番中西七番東七番西七番藏白木屋彦太郎買置キ米詰置候二付、御改御封印御付、私共江御預ケ被為遊奉預候、以上

延享元年

子九月廿七日

右御兩人宛名

藏主 庄兵衛印

五人組 作兵衛印

名主 茂次郎印

差上申一札之事

一米壹俵

右署通老丁目彦太郎買入米之内、過ニ相見江候ニ付、私共江御預ケ被為遊奉預候、已上

一色町藏主 庄兵衛印

五人組 作兵衛印

延享元年

子九月廿七日

右御兩人宛当

6 白木屋江戸店書狀控（京本店宛か、延享元年九月二七日夕）

一筆啓上仕候、其御地無御別条、且那樣益御機嫌能被為御座、貴公様弥御安康被遊御座候之旨、目出度大悦之至奉存候、此元御店別而相更儀無御座候間、乍憚貴意易被思召可被下候

一先達而兩度以書狀申上候通、此度米買置之儀被為仰付、二三日中ニ先々金子有合相調、書附ニ封印仕差出候様ニと御封印之御書附を以被仰渡候付、則湯淺や与右衛門殿方々右金高員數之内江早々相調申候分、米俵數代金高書附封印仕、昨朝御番所様江差上候所、早速今日御役人衆御出御改被遊候、則深川一色町ニ借り藏仕御改請申候、尤銘々御改之上土藏ニ御封印被成、証文御取被成候、印形之儀ハ彦太郎代太郎右衛門判、右藏主并所之名主組中印形御取被遊、今日七ツ時ニ相濟申候、然ル所今日七ツ過又々御番所様御召在之、早速罷出候所只老入御呼込御前ニ而被仰渡候ハ、先達而御封印ニ而御渡シ被遊

候金高員數自分斗拜見仕候哉、決而他見ハ不仕候哉と御尋御座候、私老入外一切相知らせ不申候旨申上候所、此後共ニ金高外へ洩聞得候様成儀有之候ハ、急度可被為仰付候段嚴敷被仰渡候

右之様子ニ御座候へハ、先達而封印仕申上候金高員數之儀、其節も申上候通其御地ニ而も御覽不被遊候分ニ而、一切御沙汰御無用被遊可被下候、殊之外御大切成御事御座候付、為念又々如此御座候、尤右此度之御儀別而諸夏嚴敷被仰付候御事ニ御座候間、此後度々書狀ハ差為登申間鋪候、左様被思召可被下候、猶又此元之儀隨分諸夏間違出來不申様ニ大事ニ相勤可申候間、此義乍憚御安慮被遊可被下候、右之旨且那樣江茂貴公様宜敷御執成被仰上可被下候、定而其御地ニ而も被仰付候御儀と奉存候、右之趣為可申上如此御座候、恐惶謹言

九月廿七日夕

猶々此間申上候一列九人衆、何方ニ而も申合も難成事御座候所、廿三日ニ被仰付其翌日る段々買入書附差上被申、不殘昨朝迄ニ書附相納り、今日九軒共不殘御改相濟申候儀ニ御座候

7 買米書付提出令（延享元年一〇月四日）

右之者共明五日五ツ時永代橋向迄罷出、先達而御番所江差出候買米書付之通致印形横紙ニ認、尤買先をも記し致持参、見分役人江可差出者也

子十月四日

白木屋彦太郎

8 買米書付控（延享元年一〇月五日）

覚

新田嶋佐賀町下之橋横堀
山敷治兵衛藏西側四番二入

亥年上米

一三州岡崎米 八百俵 三斗九升入

此斛 三百拾貳石

右者浅草駒形町山田屋七郎兵衛方々十月三日ニ買請申候

右同人蔵西側式番ニ入

子年中米

越合米

一武州新米 八百俵 四斗入

此斛 三百式拾石

右者同人方々同日ニ買受申候

俵合千六百俵

斛合六百三拾式石

右之通ニ御座候、以上

通老町目

白木屋彦太郎代

太郎右衛門

子ノ十月五日

9 町奉行所への出頭差紙（延享元年一〇月二一日）

一南新堀

一本両替町

下ヶ札有

一伊勢町

一本革屋町

已之半刻

一西川岸

已ノ下刻

一通一町目

已ノ下刻

一南茅場町

一小船町

一本飯田町

右之者今日八ツ時可罷出者也

能勢甚四郎様御番所

十月十一日

冬木喜平治

海保半兵衛

成井善三郎

三谷三九郎

那波屋九郎兵衛

白木屋彦太郎

冬木小平治

村田治兵衛

万屋伊右衛門

10 買米書付提出令（延享元年一〇月一五日）

覚

一通老町目

白木屋彦太郎

一本石町四丁目

中里屋清左衛門

一堀江町式丁目

中西庄兵衛

一元飯田町

万屋伊右衛門

一浅草橋場

水野平八

一伊勢町

成井善三郎

一堀江町三丁目

覚部源兵衛

一本湊町

ならや源七

右之者共明十六日五ツ時迄ニ永代橋ノ向江罷出、先達而番所江差出候買米書付之通、致横紙印形買先書入致持参、役人へ差出し可申者也

甚四郎様御番所

十月十五日

11 四六名名前書付

呉服丁

三谷勘四郎

両かへ丁

三谷善次郎

同断

大塚三郎兵衛

仙波太郎兵衛

片山善兵衛

水野平八

石川庄兵衛

浅草すハ丁

橋本助右衛門

大和屋三郎右衛門

なへ丁

油や平右衛門

村上伝左衛門

石丁

大坂や久兵衛

大和屋四郎右衛門

小網丁

中里清左衛門

印伝や庄次郎

小網丁

鹿沼や吉郎兵衛

川北久太夫

本丁

岸部や藤右衛門

竹口権兵衛

小舟丁

村田七右衛門

伝馬丁

冬木文右衛門

伝馬町

長谷川次郎兵衛

いせ屋八兵衛

伝馬丁	殿村惣左衛門	同	丹波や五郎兵衛
同	大黒屋三右衛門	同	白子や七右衛門
	村田久右衛門	立□丁	大坂や平六
	梅や弥次兵衛	堀江丁	いせ屋長兵衛
	大坂や伊兵衛		松屋四郎兵衛
伝馬町	田端や次郎左衛門		辻与兵衛
同	小津清左衛門	堀江丁	中西庄兵衛
	後藤十右衛門		近江や源兵衛
堀江丁	福岡四郎兵衛		いせ屋一郎兵衛
同	森井八郎兵衛		安田喜兵衛
同	大泉や勘兵衛		湯浅や与右衛門
			石川庄兵衛
	×四拾六人		

12 買米書付提出令（延享元年一〇月一六日）

通老丁め

白木屋彦太郎

代太郎右衛門

右之者共明日之見分相延、明後日見分役人可相廻候間、今度之買入米明後十八日改候間、先達而番所へ差出候書上之通、俵数石高何国何米何月何日誰方る買取并蔵付等、横帯ニ相認致印形、明日十八日五ツ時永代橋向兵庫ヤ会所迄致持参、改役人相廻り次第可差出者也

子十月十六日

13 白木屋江戸店書状控（京本店宛、延享元年一〇月一八日）

当月四日出之乍御報貴札相届忝具拝見仕候、先以追日寒冷御座候所、其御地御別条無御座、旦那様方御揃御機嫌能為成御座、貴公様御安全被遊御座候由、珍重御儀奉存候

一此度之一儀ニ付、先達而何角之様子御内意申上候所相届、御承知被成下候旨

被入御念此度具貴答被仰下承知仕、大悦之至ニ奉存候、先達而申上候通、弥此後間違等無之様諸事大切ニ相勤申間、乍憚御安慮被遊可被下候

一爰元商事之義先達而追々申上候通、世間共不景氣在之何商内事以而之外薄ク御座候由ニ而、何分事も金子溜り無數氣之毒奉存候、就夫例年共廿一日少々も為登金も在之、其上宛事中為替高大概之様子申上候事ニ御座候へ共、先達而申上候通未買米等相済不申候、金子溜りも無之ニ付、為登金も差為登不申候、且又来月分為替之義も延引仕、追々様子可申上候間左様ニ御思召可被下候、右之段御断申上度再報旁如此御座候、猶期後喜時之候、已上

子ノ

太郎右衛門

十月十八日
田中勘右衛門殿

14 白木屋江戸店書状控（月日不詳）

一今度買置米之儀、御奉行様被為仰付候趣、先達而早状を以両度上候所、無相違相届御披見被遊被下候旨、此度委細貴答被成下具拝見仕候、然ル所早速旦那様へも被仰上被下候所、被為聞召先以今般ケ様之御義御店へ被仰付候御儀、誠に冥加ニ御叶被為成候御義と難有被為思召、各様方御一同ニ難有御義ニ思召候ニ付、委細被仰下承知仕候、御尤至極存爰元ニ而も乍恐何れも難有仕合奉存候

一先月廿七日出勘右衛門様へ以書中委細之様子申上候、定而相届御披見被遊可被下と奉察候、其後少々相調当四日ニ書付を以御訴申上、翌五日ニ御役人中御出御見分之上、御封印首尾能相済申候間御安慮被遊可被下候、就ハ爰元商内事之義追々本状ニ申上候通、益後自今至何商事も以而之外不商ニ有之何分溜り金無御座、其上在金等格別無數難儀仕候故、当分田舎買物等差控、且又廿九日為登金之儀御断上候所御承知被遊被下、此度委細被仰下具承知仕候、其御地之義も時分柄之儀、段々金子御入用ニ御座候へハ御工面之程如何と被思召候へ共、此度之義ニ候へハ何卒御手廻し御工面被遊可被下候間、月々為登金之義ハ延引仕候ても、何卒田舎買物之義ハ相応ニも相調候様ニ工面仕候様ニと被仰下委細奉候、左候へハ先達而申上候当月分為替之義も延引仕候義も可有御座候間、兼而左様ニ御心得被遊可被下候、此上随分相考爰元

商事差支ニ相成不申候様ニ工面可仕候間、御安慮被遊可被下候、如貴命之米屋衆其外被為仰付候衆段、買入在之候ハ、自然と直段も宜相成、御武家様方ハ不及申上ル、其外在方迄も勝手宜末ニ至商事繁昌可仕候、「」「」難有御事奉悦候

一今般被為仰付候買置米之儀付、旦那様被仰出候儀兩度之御状ニ具被仰付候通、今度被為仰付候御義寔以冥加ニ御叶被為成候儀と難在被為思召候旨、殊ニ此度被為仰出候趣御意重ク御儀ニ被為思召候間、被為仰渡候御員數之通ニ弥金子手廻り次第少も相違無之様ニ相調、藏詰仕候様ニと被仰付候由、御大切之御儀ニ御座候ヘハ、少も簾抹之義無御座候様ニ相心掛、諸事念入相調候様ニ被仰出、各様方ニも右之思召御尤之御義被思召候間、弥左様ニ相心得申候様ニと何角被入御念被仰下、御細書之趣承知仕委細奉畏候、寔以被仰下候通御大切成被仰付ニ御座候ヘハ、此末間違等も無之首尾能相勤申様ニと衆中も相慎可申候様ニ疾与示合仕、別而私共心願も相立、諸事念入相談仕大切ニ相勤可申上候、此義御安慮被遊可被下候、何様此末御惠ニも相成、御店弥増御繁栄と難有御義奉存候

15 買米伺書控（延享元年一〇月）

一米貳千六百俵

此斛 九百六拾壹石貳斗四升六合

代金千拾兩貳歩ト壹匁五分七リン

右ハ九月廿六日ニ書附差上ケ候分

一米千六百俵

此斛 六百三拾貳石

代金六百八拾五兩貳分ト三匁九分九リン

右ハ当月十四日ニ書附差上ケ候分

一米千五百七拾五俵

此斛 五百八拾五石壹斗四升

代金六百五兩三歩ト拾四匁分

右ハ当月十六日ニ書附差上ケ候分

右三口

俵數合五千七百七拾五俵

斛高合貳千七百七拾八石三斗八升六合

代金合貳千三百貳兩ト四匁六分六リン

右之通被為仰付候金高之内江買置米仕、先達而書付を以御訴奉申上候、相残り候金高凡七百兩程ニ御座候、此分今一切ニ買置米仕度御窺奉申上候、以上

延享元年

子ノ十月

御奉行所様

通老町目

白木屋彦太郎

16 買米書上控（延享元年九月二十六日〜十一月六日）

買米書上ケ之扣

白木屋

太郎右衛門

覚

一芳賀米 五百俵 三斗九升八合入

此斛 百九拾九石

金壹兩ニ付九斗貳升カヘ

代金貳百拾六兩壹分ト三匁貳分六リン

一房州 上総米 三百三拾五俵 三斗七升五合入

此斛 百貳拾五石六斗貳升五合

金壹兩ニ付九斗四升カヘ

代金百三拾三兩貳歩ト八匁六分六リン

一岩城米 貳百拾六俵 三斗貳升五合入

此斛 七拾石貳斗

金壹兩ニ付九斗六升カヘ

代金七拾三兩ト七匁五分

一棚倉米 七百四拾九俵 三斗貳升九合入

此斛 貳百四拾六石貳升壹合

金壹兩ニ付九斗六升かへ

代金貳百五拾六兩貳步ト拾壹匁三分壹リン

一佐倉米 七百俵 四斗入

此斛 貳百八拾石

金壹兩ニ付九斗七升かへ

代金貳百八拾八兩貳步ト九匁五分八リン

一神奈川米 百俵 四斗入

此斛 四拾石

金壹兩ニ付九斗五升かへ

代金四拾貳兩ト六匁三分壹リン

右六口 湯淺や与右衛門買也

俵数合貳千六百俵

斛高合九百六拾壹石貳斗四升六合

代金合千拾兩貳步ト壹匁五分七リン

右之通被為仰付候金高之内江買置米仕候、以上

通壺町目

白木屋彦太郎代

太郎右衛門判

延享元年子ノ九月廿六日
御奉行所様

覚

一三州岡崎米 八百俵 三斗九升入

此斛 三百拾貳石

金壹兩ニ付八斗六升五合かへ

代金三百六拾兩貳步ト拾壹匁六分壹リン

一武州新米 八百俵 四斗入

此斛 三百貳拾石

金壹兩ニ付九斗八升五合かへ

代金三百貳拾四兩三歩ト七匁三分八リン

右貳口 淺草駒形町山田や七郎兵衛を買請分

俵数合千六百俵

斛高合六百三拾貳石

代金合六百八拾五兩貳步ト三匁九分九リン

右之通被為仰付候金高之内江買置米仕候、以上

延享元年子十月四日

小あミ町三町目

いハしや次左衛門買

一備後米 五百俵 三斗壹升八合入

此斛 百五拾九石

金壹兩ニ付九斗六升かへ

代金百六拾五兩貳分ト七匁五分

一下総都賀米 三百七拾五俵 四斗貳升入

此斛 百五拾七石五斗

金壹兩ニ付九斗七升かへ

代金百六拾貳兩壹分ト七匁貳分六リン

湯淺や与右衛門買

一美濃米 四百俵 三斗九升五合入

此斛 百五拾八石

金壹兩ニ付九斗四升かへ

代金百六拾八兩ト五匁壹分

小あミ町老町め

関口庄右衛門

十月十二日買

一最上米 百四拾俵 三斗六升八合入

此斛 五拾壹石五斗貳升

御藏三拾四兩貳分かへ

代金五拾兩三分ト貳匁五リン

御藏前

江原や左兵衛

同十三日買

一武州葛西米 百六拾俵 三斗六升九合五夕入

此斛 五拾九石壹斗貳升

御蔵三拾五兩かへ

代金五拾九兩ト七匁貳分

御蔵前

三河や清兵衛

右五口

俵数合千五百七拾五俵

斛高合五百八拾五石壹斗四升

代金合六百五兩三分ト十四匁壹分

右之通

延享元年

子十月十六日書上

一相馬米 五百俵 三斗六合入

此斛 百五拾三石

金壹兩ニ付九斗九升かへ

代金百五拾四兩貳分ト貳匁七分

一宍戸米 四拾俵 四斗五合入

此斛 拾六石貳斗

金壹兩ニ付九斗九升かへ

代金拾六兩壹分ト六匁八分

右貳口

俵数合五百四拾俵

斛高合百六拾九石貳斗

代金合百七拾兩三步ト九匁五分

右之通

延享元年

子ノ霜月六日

17 買置米差免令（延享元年一月）

申渡し

其方共儀、先達而買置米致候様ニ申渡候付、何れも情出し買置米致候付、余程直段引上ケ候、然所当年ハ豊年故米沢山ニ入込、其上買人無數候故米捌悪、武士方払米等も差支候由相聞得候ニ付、其方共買置米差免し候、只今迄蔵詰致候買置米封印とかセ可遣候間、勝手次第売払可申候、直段之儀者此以後相對次第第二武士方払米等差支無之様ニ可令売買候、先達而渡置候買米石高之書付者能勢甚四郎番所江持参可相納候

十一月

18 白木屋江戸店書状控（延享元年一月一日）

早便ニ

六日ニ一筆啓上仕候、追日寒氣趣候得共其御地御別条無御座、旦那様方御揃益御機嫌能為成御座、各様御安康之旨追々承知仕目出度大悦之至ニ奉存候、当方御店御別義無御座、衆中私共無異相務罷有候間、乍憚貴意易御思召可被下候

一昨十八日朝嶋長門守様御番所江被為召出候間罷出候所、御当地米問ヤ頭衆蔵前問ヤ頭衆御呼込在之候而、其次ニ先達而買米被仰付候御店共九人之衆御召出ニ御座候而、別而九人之衆江可為仰渡候趣

米直段下直ニ付、先達而其方共江買米之義被為仰付候所、出情いたし相調候ニ付、米直段余程宜敷成御大慶ニ被思召候旨、就夫今日先達而詰置候蔵々御封印御とき御渡可被遊候間、勝手次第売払可申旨、尤從是すぐニ役人差可遣候間、蔵詰致候場所江参出迎候様ニ可仕、取分ケ其方共職分ニも無之義ニ而、此間嘸苦勞ニ可存旨御意被成下候、皆々難有御儀ニ奉存候

其外此度買米被為仰付候衆中米問ヤ衆一組宛段々御呼出し、昨日皆々御免之御申渡し之候由

右之通被為仰渡候付、番所よりすぐニ深川永代橋向江罷出、御役人衆ヲ御待請申上候、早速両御番所より御役人方御出被遊候へ共、諸方蔵々夥敷御事ニ御座候間、夜ニ入候へ共相濟不申候、尤御手前分茂佐賀町之蔵一ヶ所相殘申

候、夫故今朝五ツ時出迎候様ニ被仰付、則今朝罷出候所、昨日之相残も大分
之御事ニ御座候故、漸八ツ時ニ手前かり蔵江御廻り合被遊、御封印仰とき相
濟申候

一先達而御封印ニ而御渡し被遊候石高之御書附之儀ハ、昨日被為仰渡候通、今
日無相違能勢甚四郎様御番所江持参仕相納申候

右之通ニ而諸事首尾能相濟申候間、御安慮被遊可被下候、先以此度ハ不存寄
御大切成御用之儀被為仰付候所、聊之間違も無御座首尾能相濟大悦至極ニ奉
存候、殊ニ右御封印何角共早速御免被成下候儀難有御儀ニ奉存候、此段昨夜
ニも早速可申上答ニ御座候へ共、右申上候通夜ニ入候迄御封印之儀相濟不
申ニ付、今日迄及延引候

一能勢甚四郎様御儀ハ先比御病氣ニ被遊御座候而、公事訴訟等茂此間ハ御聞
不被遊候、夫故ニ御座候哉、右御免之御儀嶋長門守様御番所ニ而昨日被為仰
渡候

一昨十八日昼七ツ時、町年寄樽や殿方江参候様ニ御配符来候間、早速参候所右
御番所ニ而御申渡し御座候御書附出申候、則懸御目申上候
右之通御免被成下、今日万事首尾能相濟難有仕合大悦此御事奉存候、右之趣
為可申上如此御座候、恐惶謹言

十一月十九日晚

四人

京

御三人

追而申上候、右蔵詰仕候米之儀、諸方ニ夥敷事御座候得ハ、何分ニも当分に
てハ捌ケ方御座有間敷と奉存候、殊ニ何れも相庭高直成物ニ而御座候得ハ御
損亡相立可申間、氣之毒千萬奉存候、随分見合申候而此上少も御損失無数在
之候様ニ壳払申度奉存候、猶又委細之趣ハ追而以書狀可申上候、已上

19 白木屋江戸店書狀控 (延享元年十一月一九日)

乍貴報当月三日出十日晩出兩度之御細書忝具拜見仕候、時分柄段々寒氣趣申
候得共其御地御別条無御座、且那樣方御儀益御機嫌能被為成御座、各様弥御
安康之旨追々承知仕、目出度御儀大悦奉存候、当地御店別而相更儀無御座、

衆中私共無異相務罷有候、乍憚貴意易被思召可被下候
一先達而關東物絹紬類調方之儀被仰下候間、御報申上候処御承知被遊被下候
由、此度貴答被仰下具拜見仕珍重奉存候

一先達而当月朔日晚金積仕候付、為替高之儀何角御断申上候所、一御承知被
遊被下候由ニ而此度委貴報被仰下大悦奉存候、其後当地商内事之様子追々六
日書狀ニ申上候通、打続天氣相茂宜敷殊時分柄ニ御座候付、而御見セ共相
応ニ人立在之賑々敷御座候而大悦奉存候、乍去墓々敷商内事ハ一円無御座候
故何分ニ茂壳高上リ不申、勿論金子溜リ殊之外無數御座候而氣之毒奉存候、
就夫先達而も申上候通、当月中旬過積之儀十七日晚ニ相考申候付、追為替員
数高六日書狀ニ申上候、定而御披見被遊可被下と奉存候、右六日書狀ニ御断
申上候通、当月分之儀何卒今少多申上度奉存候得共、段々御断申上候通兎角
金子溜リ無甲斐、其上只今之内關東物類茂少々宛相調申度奉存候間、何分ニ茂
存候様ニ参兼夫故員数無數申上候、將又極月分之追為替之儀も未墓々敷、地
田舎共商内事有出不申候付殊之外無數御座候而難儀千萬奉存候、夫故此元何
角細ニ相考積ニ入候得共、漸本狀ニ申上候通之員数ニ御座候得ハ、定而其御
地御思召とハ各別之相違ニ可有御座と千萬氣之毒奉存候、何卒此未諸方共賑
々敷一商更有出候而、追々吉左右申上候様ニ仕度是而巳奉願候

一爰元諸用之儀ハ追々六日書狀ニ申上候間、御披見被遊可被下候、先日右之趣
再答旁申上度如此御座候、猶期後喜之時候、恐惶謹言

十一月十九日

三人

勘右衛門様

重右衛門様

文右衛門様

猶々此元太右衛門方江御加筆被成下、為申聞候所忝奉存候旨、且又十日晩出
乍御報御細翰被下忝具拜見仕候、右之段私共方々宜鋪御伝申上吳候様ニ被申
候、已上

20 白木屋江戸店書狀控 (延享元年十一月二一日)

一先書申上候通、当十八日朝嶋長門守様御番所被為召出候付罷出候所、御当地
米問屋衆之内頭衆式組并先達而買米被仰付候九人之衆御召出御座候而、則九

人之衆へ被為仰渡候趣

米直段下直ニ付先達而其方共江買米被為仰付候所、出情いたし相調候付、米直段余程宜引上ケ御大慶ニ被為思召旨、就夫今日先達而詰置候蔵々御封印御とき御渡可被遊候間、勝手次第ニ売払可申旨、尤從是すぐニ役人差遣候間、蔵詰致候場所へ参出迎候様ニ可仕、取分其方共職分ニも無之儀ニ而、此間無苦勞ニ可存候旨御賞被成下、皆々難有御義ニ奉存候

右之外買米被為仰付候衆中、米問屋仲買衆一組ツ、段々御召出シ、十八日ニ不殘御免之御申渡シ在之候由

右之通被為仰渡御座候而、則兩御番所々御役人衆御出被遊候、然共諸方詰米いたし候蔵々夥敷御事ニ御座候故、夜ニ入申候へ共相濟不申候、尤御手前分茂十八日十九日兩日ニ首尾能御封印御解相濟申候

一先達而御渡被遊員數高之御封書之儀、則十九日ニ無相違能勢甚四郎様御番所江相納申候

一昨廿日嶋長門守様へ罷出、右米買御免被成下、先達而御渡被遊候御封書昨十九日甚四郎様御番所へ相納申候、并蔵詰致置候買米御封印御とき被下置難有奉存候、右御届奉申上候

右之通御届申上相濟申候、右申上候通御座候而諸事工面能首尾能相濟、最早御公辺御掛り合無御座候間、御安慮被遊可被下候、先以此度不意成御太切之御用被為仰付候所、聊之故障無御座首尾能相濟大悅至極奉存候、殊ニ何角共早速御免被成下難有仕合奉存候、右之趣先書十九日晚出申上候へ共、為念又々如斯御座候、猶期後喜之時候、恐惶謹言

ノ十一月廿一日

御年寄中様

追而申上候、当地米之儀も未商事無之、相場も睨と相立不申由ニ御座候、何卒此上御損毛少々も無數御座候様ニ見合売払可申と奉存候、猶又委細之義ハ追而可申上候

21 米仕切之覚(延享二年)

延享二乙丑正月吉日

米仕切之覚

此帳面ハ子ノ年買米売帳也

米売仕切之扣

二月廿二日売

一最上米 百四拾俵

三斗六升式合入

内八斗引

此石 四拾九石八斗八升

兩二一石四斗六升かへ

代金三拾四兩ト九匁八分五リン

内百四拾文 小上ちん引

俵ノ百四拾俵

ノ金三拾四兩ト七匁七分五リン

此金三月廿二日受取申候

二月廿二日売

五月晦日切

一都賀米 三百七拾五俵

四斗壹升五合入

内五斗引

此斛 百五拾五石壹斗式升五合

兩二一石三斗八升かへ

代金百拾貳兩壹分 九匁五分五リン

内五匁六分引 小上ケ

俵ノ

ノ金百拾貳兩壹分ト三匁九分五リン

右代金五月晦日受取

三月六日売

一神奈川米 百俵

三斗九升入

内四斗式升引

此斛 三拾八石五斗八升

兩二一石四斗六升かへ

代金貳拾六兩壹分ト拾匁四分五リン

一佐倉米 貳百俵

三斗九升式合入

此斛 七拾七石九斗壹升

兩二一石四斗式升かへ

代金五拾四兩三分ト六匁九分五リン

俵貳三百俵

代金八拾壹兩壹分ト貳匁四分

内三百文 小上ちゃん引

俵貳三百俵

代金八拾壹兩ト拾貳匁九分

代金四月六日受取申候

三月廿一日売

一相馬米 五百俵

貳斗九升六合入

内壹石四斗五升引

此斛 百四拾六石五斗五升

兩二壹石三斗九升かへ

代金百五兩壹分ト拾匁九分

内七匁 小揚賃引

代金百五兩壹分ト三匁九分

四月廿一日受取

三月廿七日売

一葛西米 百俵

三斗六升式合入

内

此斛 三拾六石貳斗

兩二一石三斗五升かへ

代金貳拾六兩三歩ト三匁九分

内貳匁 小上ちゃん引

代金貳拾六兩三歩ト壹匁九分

四月廿一日受取

一美濃米 貳百俵

三斗八升入

此斛 七拾六石

兩二

代金

一宍戸米 四拾俵

四斗入

此斛 拾六石

兩二

代金

一葛西米 貳拾四俵

三斗五升九合五匁入

此斛 八石六斗貳升八合

兩二

代金

一備後米 壹斗

兩二

代金

俵數貳百六拾四俵

此斛高 百石七斗貳升八合也

代金八拾五兩壹分ト拾匁

内

壹兩壹分ト九匁 貳升かわ引

貳兩貳分ト百四十貳文 諸かゝり

別ニ目錄有

代金八拾壹兩壹分十四匁

内金六拾兩 請取

引残テ式拾壹兩壹分ト拾四匁
右ハ七月十三日受取

右ハ山本源右衛門方御屋鋪へ納候分、尤金子山本源右衛門方へ請取管也
四月十五日売

一備後米 百俵

三斗壹升入

内三斗式升引

此斛 三拾石六斗八升

兩二一石三斗式升かへ

代金貳拾三兩ト十四匁五分五リン

一芳賀米 五百俵

三斗八升七合入

内貳石八斗六升引

此斛 百九拾石六斗四升

兩二一石三斗九升かへ

代金百三拾七兩ト九匁五リン

一佐倉米 三百俵

三斗八升五合入

内八斗九升引

此斛 百拾四石六斗壹升

兩二一石四斗式升かへ

代金八拾兩貳分ト十式匁六分五リン

内拾三匁五分 小揚賃引

俵ノ九百俵

ノ金貳百四拾兩三分ト七匁七分五リン

右之代金五月十七日受取相済申候

四月十七日売

一上総
一房州米 三百三拾五俵

三斗六升六合入

内四石六斗五升引

此斛 百拾七石九斗六升

兩二一石四斗かへ

代金八拾四兩壹分ト四分

一岩城米 貳百拾六俵

三斗壹升入六合入

内貳石六升引

此斛 六拾六石壹斗九升六合

兩二一石四斗かへ

代金四拾七兩壹分ト壹匁九分

内八匁貳分五リン 小上ケちん引

俵ノ五百五拾壹俵

代金ノ百三拾壹兩壹分ト九匁五リン

ノ右之代金五月十七日受取相済申候

四月十七日売

一備後米 四百俵

三斗五合入

内五石壹斗四升引

此斛 百拾六石八斗六升

兩二壹石三斗三升かへ

代金八拾七兩三分ト六匁八分五リン

内六匁 小上ケちん引

ノ金八拾七兩三分ト八分五リン

右ハ五月廿一日代金受取申候

一棚倉米 七百四拾九俵

三斗壹升入六合入

内五石八斗引

此斛 貳百三拾石八斗八升四合

兩二一石四斗式升かへ

代金百六拾貳兩貳分ト五匁六分五リン

一葛西米 三拾六俵

三斗六升入

内八升引

此斛 拾貳石八斗八升

両二一石三斗六升かへ

代金九兩壹分ト十三匁貳分五リン

俵合七百八拾五俵

内壹分 八匁五分五リン引

メ金百七拾壹兩貳分ト拾匁三分五リン

右代金六月十四日受取

一佐倉米 貳百俵

三斗八升六合入

此斛 七拾三石四斗貳升

両二一石四斗壹升かへ

代金五拾貳兩ト四匁貳分五リン

内六匁 小上ちん引

メ金五拾壹兩三分ト十三匁貳分五リン

右代金六月晦日受取

一美濃米 貳百俵

三斗八升入

此斛 七拾六石

両二一石貳斗かへ

代金六拾三兩壹分ト拾匁

一葛西米 百俵

三斗九升入

両二一石貳斗かへ

此斛 三拾九石

代金三拾貳兩貳分也

二口俵合三百俵

メ金九拾五兩三分ト拾匁也

右ハ手前飯米ニ遣、内メ金出シ相済申候、七月十三日

丑十月卅日仕切

一葛西米 五百拾俵

三斗七升五合入

此斛 百九拾壹石貳斗五升

両二壹石六升かへ

代金百八拾壹兩ト十匁四分五リン

一同痛物 百貳拾三俵

三斗七升五合入

此斛 四拾六石貳升五合

両壹石壹斗四升かへ

代金四拾兩壹分ト十貳匁六分五リン

一同台付 五拾壹俵

三斗七升五合入

此斛 拾九石壹斗貳升五合

両二壹石貳升かへ

代金拾五兩三步ト十一匁貳分五リン

右高七百俵之内出俵百九拾俵斗立ニして十六俵不足相成候

俵数六百八拾四俵

代金合貳百三拾六兩三分ト四匁三分五リン

内

一壹兩三分ト十三匁四分 口せん

一壹メ八拾文 小揚ちん

一壹メ百四拾文 引取ちん

一六百廿六文 筈番

一壹メ四百文 斗立之日用ちん

メ貳兩三分ト十貳匁九分

差引残テ

金貳百三十三兩三分ト六匁四分五リン

右ハ湯浅屋ニ而丑十月ニ売払金子受取申候

一岡崎米 九拾七俵

三斗八升貳合入

此斛 三拾七石五升四合
兩壺石壺斗七升かへ
代金三拾壺兩貳分ト十匁貳分
一同 五百四拾八匁
三斗七升九合入
此斛 貳百七石六斗九升貳合
兩ニ壺石壺斗八升三合かへ
代金百七拾五兩貳分ト三匁八分
一同 鼠喰 貳拾壺俵
三斗七升九合入
此斛 七石九斗五升九合
兩ニ壺石三斗六升かへ
代金五兩三分ト六匁壹分五リン
一同 大鼠喰 六俵
入同斷
此斛 貳石貳斗七升四合
兩ニ貳石貳升かへ
代金壺兩ト七匁五分五リン
一同 台付 百貳拾七俵
入同斷
此斛 四拾八石壺斗三升三合
兩ニ壺石貳斗五升かへ
代金三拾八兩貳分ト四分
一同 壺俵
右藏入之節壺俵紛不足ニ相成候故、出し候節立合ニ而壺俵受取、手前飯
米ニ遣申候
俵数八百俵
代金貳百五拾貳兩貳分ト十三匁壹分
内
貳兩ト六匁三分五リン 口セン
壺分ト七匁三分五リン 小揚ちん

四貫文 引取ちん
壺メ百十四文 筈番ちん
メ三兩貳分ト十匁三分
差引
メ金貳百四拾九兩ト貳匁八分
右ハ湯淺屋ニ而丑十月ニ売金子受取申候
金高
合千七百三兩貳歩 十四匁九分
22 米売買之覺(延享二年)
延享二丑年
米売買之覺
丑歳米買仕切
始
六月廿五日
一 津輕黒石米 千俵 三斗七升貳合七夕入
内七斗八升引
此斛 三百七拾壺石九斗貳升
兩ニ壺石貳斗四升四合かへ
代金貳百九拾八兩三分ト
拾三匁貳分五リン
六貫文 はしけ賃
壺貫三百文 筈賃番賃
貳貫文 請取小揚藏入
メ九貫三百文
此金貳兩ト五匁四分
合金三百壺兩ト三匁六分五リン
六月廿五日

一南部米 六百俵 四斗貳升入

此斛 貳百五拾貳石

兩ニ壹石三斗六合かへ

代金百九拾貳兩三分ト

拾貳匁三分五リン

三貫六百文 はしけ賃
くら入

壹貫貳百文 小揚賃

×四貫八百文

此金壹兩ト四匁七分

合金百九拾四兩ト貳匁五リン

七月五日

一黒川製米 貳百五拾八俵 四斗五升三合入

内三斗貳升引

此斛 百拾六石五斗五升四合

兩ニ壹石貳斗三升かへ

代金九拾四兩三分ト五分五リン

一玉造製米 百三拾八俵 四斗四升四合貳タ入

内壹斗三升引

此斛 六拾壹石壹斗六升九合壹タ

兩ニ壹石貳斗貳升かへ

代金五拾兩ト八匁三分五リン

一遠田製米 八百六拾三俵

内

百拾三俵 四斗五升八合七タ入

百三拾俵 四斗四升貳合五タ入

百八拾壹俵 四斗三升三合壹タ入

四百三拾九俵 四斗五升三合入

内四石三斗七升壹合引

此斛 三百八拾貳石貳斗四升五合貳タ

兩ニ壹石貳斗五升かへ

代金三百五兩三分ト貳匁七分五リン

一下伊 江刺製米 貳百五拾四俵 四斗四升貳合八タ入

内壹石貳斗五合引

此斛 百拾壹石貳斗六升六合貳タ

兩ニ壹石貳斗三升五合かへ

代金九拾兩ト五匁六分五リン

一上伊平米 四百三拾六俵 四斗四升六合入

内壹石七升引

兩ニ壹石三斗壹升かへ

此斛 百九拾三石三斗八升六合

代金百四拾七兩貳分ト七匁三分五リン

五口俵数×千九百四拾九俵

代金×六百八拾八兩壹分ト九匁六分五リン

拾八貫三百七拾八文

はしけ
くら入
くら出し

三貫四拾八文

筈ちん
添番賃

三貫九百文

請取小上ケ
蔵入

×貳拾五貫四百文

此金五兩貳分ト拾貳匁四分五リン

合金六百九拾四兩ト七匁壹分

買高

×金千八百八拾九兩ト十貳匁八分

米売仕切

一津輕米 三斗六升五合入 千俵

内壹石壹斗五升引

此斛 三百六拾三石八斗五升

兩壹石壹斗三升かへ

代金三百貳拾壹兩三分ト十四匁四分五リン

内

一貳兩貳分ト拾壹匁 口錢

一貳兩壹分ト五匁 藏敷

一十四匁 渡小揚

メ金五兩壹分也

差引残テ

メ金三百拾六兩貳分ト十四匁四分五リン

一南部米 四斗壹升入 六百俵

内三石壹斗五升引

此斛 貳百四拾貳石八斗五升

兩壹石壹斗かへ

代金貳百貳拾兩三分ト壹匁三分五リン

内

一壹兩三分ト五匁四分 口錢

一壹兩壹分ト

十貳匁六分 藏鋪 小上ヶ

一四百文 添番

メ三兩壹分ト八匁六分

差引

メ金貳百拾七兩壹分ト七匁七分五リン

一深谷 下伊 籾米 四斗四升貳合入 貳百五拾四俵

内壹石四斗五升引

此斛 百拾石八斗壹升八合

兩壹石三升かへ

代金百七兩貳分ト五匁四分

一玉造 籾米 四斗三升九合入 百三拾八俵

内三斗貳升引

兩壹石七升かへ

代金五拾六兩壹分ト四匁壹分五リン

一遠田 籾米 四斗四升入 百三拾俵

内八斗五升引

此斛 五拾六石三斗五升

一同米 四斗貳升八合入 百八拾壹俵

内五斗五升引

此斛 七拾六石九斗壹升八合

貳口メ三百拾壹俵

石高メ百三拾三石貳斗六升八合

兩ニ壹石壹斗三升かへ

代金百拾七兩三分ト十一匁壹分五リン

一同米 四斗五升入 百拾三俵

内四斗五升引

此斛 五拾石四斗

一同米 四斗四升七合入 四百三拾九俵

内貳石七升引

此石百九拾三石五斗三升三合

貳口メ五百五拾貳俵

石メ貳百四拾三石九斗三升三合

兩壹石壹斗貳升かへ

代金貳百拾七兩三分ト貳匁八分五リン

一黒川 籾米 四斗四升六合入 貳百五拾八俵

内四斗五升引

此斛 百拾四石六斗壹升八合

兩壹石壹斗かへ

代金百四兩ト三匁九分

一上伊 平米 四斗四升壹合入 四百三拾六俵

内壹石貳斗三升引

此斛 百九拾壹石四升六合

兩壹石壹斗四升かへ

代金百六拾七兩貳分ト五匁五リン

俵数メ千九百四拾九俵

代金 \times 七百七拾毫兩分ト拾匁五分

内

一金六兩毫分 十匁七リン 口錢也

一五兩三分

藏しき

四匁六分五リン

小上ちん

\times

小以金拾貳兩毫分ト三分五リン

差引残り

金 \times 七百五拾九兩ト拾匁分五リン

三口金高

合千貳百九拾三兩毫分ト貳匁三分五リン

元高差引

残テ

金百四兩毫歩 多し

右之金去年之買置米売欠之内引落し先つ少も損亡減シ大悦奉存候

23 買米覚書 (延享元年九月 \sim 延享三年正月)

「

延享元年

覚書

子九月吉日

「

延享元年^{甲子}年九月廿三日ニ御当地町人有徳之者九人、能勢甚四郎様御番所江被為召出、嶋長門守様御立合ニ而買置米被為仰付候、則廿四日朝五ツ時ニ又 \times 被為召出、銘 \times 金高之御書附被下置、皆 \times 難有頂戴仕候而罷歸り候、尤御書付之写別ニ在之候、何れも早速米買立候故直段も引上大悦仕候、勿論買米之分早速書付封印を以右之御番所へ差上ケ申候、尤書上ケ之写別帳ニ記置候、扱 \times 珍敷御用被為仰付候而難有奉存候、右買米何れも御封印御附被為成候、其後又 \times 江戸中内証宜者御吟味之上、四拾三人被為仰候、段 \times 右之衆中買立申候、然共御屋敷様方御差聞之義も在之候由ニ而、霜月十八日ニ御免被為成候、右買入蔵詰いたし候蔵封印被成とき被下候、左候へハ米急ニ引下ケ申候故見合手前ニ而も

売扣申候、翌年丑四月 \times 六月迄ニ売払申候所、殊之外損毛夥敷事ニ御座候、差引勘定此帳尻ニ記置候、尤京都 \times 申参候而右損金寅之春勘定ニ相立為登ニ付申候故、当地ニ而ハ勝手宜候へ共、京都ニ而ハ御氣之毒ニ被為思召候、以上

吳岸嶋

茅場丁

飯田丁

冬木喜平次

冬木小平次

万屋伊右衛門

西替町

西かし

三谷三九郎

白木屋彦太郎

那波や九郎兵衛

同所

小網町

いせ町

海保半兵衛

村田治兵衛

成井善三郎

右九人之者共被為仰付候節ハ、江戸中米問屋中買不殘御白州へ御呼込被為置候而被仰渡候故、世上はつと相聞御当地ニ而ハ御屋敷御留主居中 \times 廻文廻り、其外在 \times 諸国迄も評判殊之外大行ニ申触候、先ハ御損金ハ太分^(多)ニ御座候へ共難有御事ニ御座候

延享三寅ノ正月

林田太郎右衛門

沢 喜兵衛

古沢八郎右衛門

中村伝右衛門

湯浅屋与右衛門

仕切

九月廿七日

一 佐倉米 四斗入 七百俵

内式百

内式百 内式石六斗五升引

此斛 貳百七拾七石三斗五升

同ニ九斗七升かへ

代金貳百八拾五兩三分ト拾匁六分五リン

一 神奈川米 四斗入 百俵

内三斗引

此斛 三拾九石七斗

同ニ九斗五升かへ

代金四拾壹兩三分ト貳匁三分五リン
一芳賀米 三斗九升八合入 五百俵

内壹石八斗引

此斛 百九拾七石貳斗

兩ニ九斗貳升かへ

代金貳百拾四兩貳分ト五匁八分五リン

一棚倉米 三斗貳升九合入 七百四拾九俵

内貳石壹斗引

此斛 貳百四拾四石三斗貳升壹合

兩ニ九斗六升かへ

代金貳百五拾四兩貳分ト五リン

一岩城米 三斗貳升五合入 貳百拾六俵

内六斗五升引

此斛 六拾九石五斗五升

兩ニ九斗六升かへ

代金七拾貳兩貳分ト拾壹匁八分五リン

一上総
房州米

三斗七升五合入 三百三拾五俵

内九斗八升引

此斛 百貳拾四石六斗四升五合

兩ニ九斗四升かへ

代金百三拾貳兩貳分ト六匁五リン

俵数ノ貳千六百俵

斛高ノ

代金ノ千壹兩貳分ト六匁八分

一拾匁ト九分五リン 口せん

一五貫貳百文 小上ヶ改賃

一拾五貫六百元 はしけ賃

一三貫貳百文 米貳千俵二日分管ちん

一壹ノ貳百文 右米添番三人ツ、二日分

小以金拾六兩貳分ト拾四匁貳分五リン

合金千拾八兩壹歩ト五匁九分五リン
十月十六日

一美濃米 三斗九升五合入 四百俵

内貳百俵
内貳百俵
内貳百俵
内貳百俵

此斛 百五拾七石三斗壹升

兩ニ九斗四升かへ

代金百六拾七兩貳分ト六匁五リン

一備後米 三斗壹升八合入 五百俵

内九斗五升引

此斛 百五拾八石五升

兩ニ九斗六升かへ

代金百六拾四兩貳分ト八匁壹分

一都賀米 四斗貳升入 三百七拾五俵

内六斗引

此斛 百五拾六石九斗

兩ニ九斗七升かへ

代金百六拾壹兩三分ト壹分五リン

俵数ノ千貳百七拾五俵

斛高ノ

代金ノ四百九拾三兩貳分ト拾四匁三分

一四兩三分ト 口せん

拾壹匁貳分五リン

一貳貫五百五拾文 小上ヶちん

一七貫六百五拾文 はしけ

一三百文 三百七拾五俵
管ちん

小以金七兩貳分ト拾四匁貳分五リン

合金五百壹兩壹歩ト拾三匁五分五リン

俵合三千八百七拾五俵

斛合

金合千五百拾九兩三歩ト四匁四分

小取替覚

一錢百文

浅草御蔵より深川迄米百四拾俵上乘ちん

一錢八百四拾文

浅草御蔵より深川迄最上米百四拾俵はしけ小上ちん

一錢壹貫百貳拾文

同所より葛西米百六拾俵はしけ小上共

一金拾三兩貳分ト

栖原庄兵衛蔵敷取替別ニ書付有

拾壹匁

一金貳兩壹分ト

黒江町市右衛門蔵三戸前十月朔より十一月十八日迄かり置蔵

九匁

敷取替

一金貳分

栖原や庄兵衛ニ礼

一金貳分

蔵前宿大口儀兵衛方へ祝義

一金三分ト拾匁

割麦貳たる代

錢貳貳貫六拾文

代貳拾九匁八分八リン

金貳拾八兩壹分ト拾四匁八分八リン

此分別ニ仕切有

貳口高

メ金千五百三拾八兩壹分ト

四匁貳分八リン

内金千兩ハ十月四渡

金四百兩ハ同十四日渡

金百五拾兩ハ同世日渡

指引残テ

金拾壹兩貳分ト拾匁七分八リン過上

右之金極月世日受取、是迄無出入相済申候

丑ノ正月吉日

湯浅屋殿分

始り

十二月世日分

一錢三貫八百貳拾文 伊勢町内田より五百四拾俵橋下小上ケちん取替

代金三分ト

八匁七分

丑三月二日分

一金九兩貳分

栖原や庄兵衛蔵敷取替

正月二日分

四月六日

一金三兩三分

屋鋪納米掛り

十一匁

是ハ源右衛門より請取、入ニ可致候者取替払也

六月世日

一金七兩貳分ト

須原庄兵衛蔵敷払

拾匁五分

三月四日分

同

一金三兩ト壹匁五分

右同人

五月より六月十二日迄

一金壹兩壹分

蔵方祝義取替

メ金貳拾六兩壹分

壹匁七分

浅草駒形町

山田屋七郎兵衛

仕切

十月四日

一三州岡崎米 三斗九升入 八百俵

内百俵飯米違五月

此斛 三百貳拾石

兩二八斗六升五合かへ

代金三百六拾兩貳分ト拾壹匁六分

一武州新米 四斗入 八百俵

此斛 三百貳拾石

兩二九斗八升かへ

代金三百貳拾四兩三歩ト七匁四分

俵数々千六百俵

斛高々六百三拾貳石

代金々六百八拾五兩貳分ト四匁

一拾六貫六百七拾四文 (四貫二三〇) 夕信桃ス曾文かへ

小上ヶはしけ

かゝりもの

壹俵十文也

此金四兩ト貳匁壹分

合金六百八拾九兩貳分ト六匁壹分

右ハ差引相済分

浅草御蔵買口

御蔵前札さし行司

江原や佐兵衛

正木屋忠七

十月十二日

一最上米 三斗六升八合入 百四拾俵

此斛 五拾壹石五斗貳升

三拾四兩貳分かへ

代金五拾兩三歩ト貳匁五リン

一八百四拾文 右はしけ小揚ちん

一百文 上乘ちん

此分湯浅屋取替払

々九百四拾文

代拾三匁六分五リン

金々五拾壹兩ト七分

右金子相渡し出入相済申候

十月十三日

御蔵前札さし行司

三河屋清兵衛

一武州葛西米 三斗六升九合五夕入 百六拾俵

内百俵 内貳拾四俵 内三拾六俵 此斛 五拾九石壹斗貳升

三拾五兩かへ

代金五拾九兩ト七匁貳分

一錢壹貫百貳拾文 右はしけ

小上ヶ共

但し湯浅やニ而取替払

此金壹分ト壹匁三分

金々五拾九兩壹分ト八匁五分

右金子相渡出入相済申候

伊勢町

内田権兵衛

十一月四日

一相馬米 三斗六合入 五百俵

内壹石三斗六升四合引

此斛 百五拾壹石六斗三升六合

兩二九斗九升かへ

代金百五拾三兩ト拾匁五リン

一宍戸米 四斗五合入 四拾俵

内壹斗三升引

此斛 拾六石七升

兩二九斗九升かへ

代金拾六兩ト拾三匁九分五リン

俵数々五百四拾俵

斛高々

代金々百六拾九兩壹分ト九匁

右之通内田へ相渡申候

此かゝり丑四月七日払湯浅屋へ渡仕切参ル

一三貫八百貳拾文 右米はしけ小上ちん

此金三分ト八匁七分

合金百七拾兩壹分ト貳匁七分

右金子相渡相済申候

新田嶋町佐賀町

山敷治兵衛

始り

新田嶋一色町

栖原屋庄兵衛藏鋪

藏敷差引
一金五兩壹分ト七匁
九月廿九日
式番藏・四番藏 式戸前

九月廿七日
十二月廿日迄

一金壹兩貳分 四匁 西七番

同断

一金貳兩壹分 六匁 中東七番

同断

一金壹兩貳分 四匁 中西七番

同断

一金貳兩壹分 六匁 東四番

十月四日
十二月廿日迄

一金貳兩ト拾匁五分 東貳番

同断

一金貳兩ト拾匁五分 東三番

十一月朔日
十二月廿日迄

一金壹兩貳分 中東一番

一金拾三兩貳分ト拾壹匁

右ハ極月出日湯淺ヤ取替払

丑正月吉日

一金九兩貳分 七戸前分藏敷

右ハ三月二日湯淺ヤ取替払

一金七兩貳分ト拾匁五分 藏敷

右ハ三月四月分、五月二日払湯淺ヤ取替

一金三兩ト壹匁五分 藏敷

右ハ五月
六月迄湯淺ヤ取替

一金貳拾兩也

極月廿日迄
十二月晦日払

丑正月吉日

一金三兩貳分 貳番・四番 式戸前

但し正月朔日
二月廿日迄

三月二日払

一金拾兩壹分 藏敷

三月
九月迄度々ニ払

一金拾三兩三分也

金請取之控

一三百兩 十月四日受取

一千兩 同日受取

一三百九拾兩 十月六日受取

一五拾兩三分 十月十二日受取

一五拾九兩 十月十三日受取

一十四兩 同十四日受取

一十五拾兩 同晦日受取

一百六拾九兩壹分 十一月四日受取

一壹兩三分 十一月六日受取

内六兩壹歩 十二月廿九日内へ入ル

引
金貳千五百拾四兩貳歩也

丑正月吉月初

一三兩貳分 三月二日受取

一三兩貳分	五月四日受取	一金壹兩三分	鳶野
一三兩壹分	九月八日受取	内ス正ハモヽ引代	伊右衛門渡
一三兩貳分	七月十四日受取	エ里ハ抱薦捨金四人	
×金拾三兩三分		十二月卅日	
金子払方之扣		一金五兩壹分	山敷
十月四日		七匁	治兵衛
一金三百兩	山田や 駒方	十二月卅日分	
同	七郎兵衛殿渡	内拾壹兩貳分	湯浅屋過上分引
一金千兩	湯浅や	拾匁六分式リン	
	与右衛門殿渡ス	金×貳千五百拾四兩貳歩ト	拾四匁六分式リン
十月六日		丑正月吉日	
一三百九拾兩	山田や 駒方	正月 九月迄	
十月十二日	七郎兵衛殿渡ス	一拾三兩三分	山敷
一五拾兩三分	江原や 御藏前		治兵衛へ渡ス
貳匁五リン	佐兵衛殿渡	一貳拾壹兩壹分	藏敷
十月十三日		五匁七分	庄兵衛渡ス
一五拾九兩ト	三河や 御藏前	一壹兩壹分	藏敷
七匁貳分	清兵衛殿渡	×金三拾六兩壹分	右兩人へ祝義
十月十四日		貳拾匁三分	
一四百兩也	湯浅屋	兩年分	
十月卅日	与右衛門殿渡	商合	
一金百五拾兩	湯浅屋	金貳千五百五拾壹兩ト	
	与右衛門殿渡	五匁三分	
十一月四日		内	
一金百六拾九兩壹分ト	内田 いセ町	一金千七百三兩貳分	右米売代
九匁	権兵衛殿渡	十四匁九分	
十一月六日		一金百四兩壹分	丑年買米売徳之分

二口
拾匁四分

メ金千八百八兩卜
拾匁三分

差引

メ金七百四拾三兩卜
五匁

右之通ニ御座候